

SEA TRIAL

# THE 3RD GENERATION

---

## TARGA 27.2

---

2018年初春にワールドプレミアを果たした「TARGA(タルガ)」の第3世代モデルとなる「TARGA 27.2」が、今年、2019年3月のJAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOWにて日本初上陸を果たした。トラディショナルな風貌を持ちながらも軽く30ノット台後半をマークするハイポテンシャルボートを、浦賀水道周辺にてシートリアル。フィンボートの素晴らしさを堪能した。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada  
special thanks: WINCKLER [www.sports-w.com](http://www.sports-w.com)  
UNIMAT PRECIOUS [www.unimat-marine.com](http://www.unimat-marine.com)





### 3世代目のメジャーアップデートを成し遂げた「TARGA」の定番 27フッター より大型化し居住性を高めながらも走りには貪欲。フィンボートらしい意匠に富んだモデルだ

逆傾斜したフロントウインドシールドを持つトラディショナルなパイロットハウスが特徴的な「TARGA (タルガ)」は、1976年に創業した「Botnia Marin (ボートゥニアマリン)」が製造する典型的なフィンボートである。この「TARGA 27.2」は、2018年2月のヘルシンキボートショーでワールドプレミアされたモデル。去る2019年3月に開催されたJAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOWで国内初お披露目となったこのモデルを、早速シートライアルに駆り出した。

今回の「27.2」はいわゆるメジャーアップデート。Botnia Marinの場合、艇種名末尾の小数点以下がメジャーアップデート回数に当たり、何もつ

かないのが第1世代。「1」が第2世代で、今回の「2」が最新の第3世代となる。

第1世代、最初の「TARGA 27」が誕生したのは1991年、以来200艇の建造が行われたという。2003年には「27.1」が開発され、こちらも200艇を数えた。そして2018年のワールドプレミアで完全な新型ハル、新たなサイズ、モールドなど、すべてオールニューの第3世代「27.2」が発表された。

従来の「27.1」のサイズは全長8.90m×全幅3.04mだったが、「27.2」は全長9.19m×全幅3.10mと大型化している(ちなみに第1世代「27」は8.56m×全幅3.04m)。重量も3.9トンから4.1トンに



増加したが、ニューモデルでもTARGAらしいハイパフォーマンスは健在。むしろ重量増により安定感を増した感がある。最新の発表によれば、2019モデルの「27.2」のパワースースは、VOLVO PENTA D6の1基掛けに、新開発のDPIドライブの組み合わせ。340馬力～440馬力に4モデルが用意される。

\*

シートライアルは浦賀にあるシティマリーナヴェラシスにて行われた。エンジン仕様はVOLVO PENTA D6-370×1基。浦賀沖は多少のうねりがあるコンディション。フライブリッジに登り、ステアリングホイールに手をかける。電子式のスロットルは非常に軽やかでスムーズに動く。デッドスロー600rpmから徐々に速度を上げ、1,200rpmで7～8ノット。2,000rpmで13～15ノット、2,400rpmを超えると21～23ノットと素晴らしい加速感を味わえる。2,800rpmで27～28ノット。



おそらく2,500～2,700rpm前後がクルーズレンジとなりそうだ。さらにスロットルを押し込む。3,200rpmで31～32ノット、マックス3,400rpm前後で34～35ノットをマークした。トラディショナルな風貌からは想像も付かないようなハイパフォーマンスで、カタログ値を超える40ノット

も十分に狙えるとか。この高速性&凌波性は、TARGAに代表されるフィンランドのパイロットハウスボートに共通する大きな魅力である。

筆者は2018年6月、本国フィンランドにて同じ「27.2」の400馬力(VOLVO PENTA D6-400)搭載モデルのシートライアルも行った。試乗時の水面

はまるで湖のようなフラットな海域、トップスピードは38ノット。ロアステーションで操船したが、そんな速度を感じさせない安心感と安定感が印象に残っている。他のボートの曳き波で波当たりを確認したり、フルスロットルのままスラロームをしたりとハードなテストを行ったが、素晴



素晴らしいポテンシャルの走りを見せる「TARGA 27.2」。抜群の安定感があり、たとえ波に当たっても船体の堅牢性をしっかりと感じさせてくれる。ファミリークルーズにはぴったりの一艇だ。



パイロットハウス両舷にスライド式のドア。ヘルム脇にドアがあるのでショートハンドでの離着岸も至ってしやすい。ドライバーとパッセンジャーシートは共に後ろ向きにしてテーブルを囲める。ダッシュボードにはミニギャレ、フォア側に個室ヘッド&シャワー、アフト側のステップからロアデッキに降りれば4名分のベッドスペースが確保されている。フルワークは丈の高いレールがセットされ、後部とサイドにアクセスゲート。コンパクトなフライブリッジは詰めれば大人3名が並べる。前後デッキも使いやすく、楽しいピクニックが期待できる。

らしい走行性能には痺れた。今回は日本の海、フライブリッジで少し冷たい風を受けながらも高速ターンを繰り返すと、やはり痺れるような素晴らしい走り。これぞ、フィンボートの代名詞とも言うべきポテンシャルを再確認できた。しかも、27フッターというミドルサイズにこれだけのハイパフォーマンスながら、高速走行時の安心感が素晴らしい。ずっしりというとは違うが格段に安定感が高く、波に当たったときも船体の堅牢性をしっかりと感じさせてくれる。

\*

伝統のデッキレイアウトは、全周ウォークアラウンドデッキの中央にパイロットハウスを配置。全長が伸びた分、パイロットハウスは従来よりも広がっている。操船はパイロットハウス内のロアと、フライブリッジの2箇所。ロアステーションのステアリングホイールは、着座でもスタンディングでもどちらでも操船しやすいようにトリム可能。逆傾斜したシールド越しの視界は良好で、左右のワッチもとてもしやすい。

右にシングルドライバーズシート、左に幅広のパッセンジャーシート

が配され、両方とも後ろ向きにすればテーブルを挟んだ対面式シートに変形できる。パッセンジャーシート前のダッシュボードは開閉式で、中にはシンク&2バーナーのミニギャレが隠される。引き出しに収められたTARGAロゴ入りのカトラリーも上質で嬉しい。さらに、パイロットハウスのフォア側にはヘッド&シャワールーム、アフト側からロアデッキにアクセスすれば4名分のベッドルームがレイアウトされている。27フィートというサイズ以上に中は広く、驚かされるだろう。

\*

太陽を浴びながらフライブリッジで操船、でも少し肌寒い日はパイロットハウス内が恋しい。27フィートの体躯に熟成を重ねた高い実用性と、高速性、凌波性を誇る「TARGA 27.2」。いかにもボート大国フィンランドらしい、全天候型の硬派なボートである。P.B.



シングルエンジン、スターンドライブ仕様。取付艇はVOLVO PENTA D6-370を搭載。エンジンパリエーションはすべてVOLVO PENTA D6のシングルで、340馬力~440馬力に4モデルが用意される。トランスムプラットフォーム上の木製ハッチはインスペクションハッチで、洋上でも安全にチェックが行える。

**TARGA 27.2**

- 全長 9.19 m
- 全幅 3.10 m
- 喫水 1.10 m
- 重量 4.1 ton
- エンジン VOLVO PENTA D6-370
- 最高出力 370 HP
- 燃料タンク 530 L
- 清水タンク 65 L



YouTube

問い合わせ先 輸入元日本総代理店 ウィンクレル TEL: 045-681-0104 www.sports-w.com  
販売店 ユニマツプレシャス TEL: 046-856-0141 www.unimat-marine.com